

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年2月16日

【評価実施概要】

事業所番号	1592500019
法人名	社会福祉法人くろかわ福祉会
事業所名	グループホーム黒川
所在地	新潟県胎内市黒川1287番地6 (電 話) 0254 - 47 - 0405
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 20 年 12 月 2 日

【情報提供票より (20 年 11 月 1 日事業所記入)】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人、非常勤 1人、常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階 建ての 2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円
敷金	☐ 有(円) ☒ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	☒ 有(円) ☐ 無	有りの場合 償却の有無	☐ 有 ☐ 無
食材料費	朝食 300 円 夕食 400 円 または1日あたり	昼食 300 円 おやつ — 円	

(4) 利用者の概要 (20 年 11 月現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低 71 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 白日会(黒川病院、介護老人保健施設やまぼうし)
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの建物が以前は精神科病院であったこともあり、開設当初はなかなか地域からの理解が得られず、開設後1年間は利用者定員を満たすことが出来なかった。しかし、認知症になっても当たり前で家庭的な生活を営めるよう支援したいという理念のもと、管理者を中心に職員が一丸となり、ホームの理念や意義を理解してもらえるよう公共施設や地域の行事へ積極的に参加するなど地域への働きかけを着実に続けてきた結果、現在、地域から厚い信頼を得ている。利用者も散歩や買い物、畑仕事等で日常的に外へ出ており、地域住民から声をかけてもらうなど関係づくりが進んできている。ホームで過ごす利用者や職員、家族の雰囲気も明るく、信頼関係が構築されていることが伺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回外部評価結果をもとに、計画的・継続的に改善に取り組んでいる。「運営推進会議を活かした取り組み」として、会議でも評価結果を報告し、委員からの意見も得て運営に取り入れている。委員からの意見により、より生活状況が分かるようホームのパンフレット内容を見直し、それを地域へ配布するなど活用している。「同業者との交流」については、利用者・職員が共に近隣のグループホームと交流しており、今後も継続していく意向である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で自己評価を実施した。職員一人ひとりから現在のホームの課題をあげてもらい、サービスの向上に努めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 構成メンバーは、利用者家族代表、市介護保険担当者、社会福祉協議会職員、地域包括支援センター職員、町内会長となっている。サービスの向上における運営推進会議の意義や役割を重要視し、必ず全員が出席してできるよう日程調整を行っている。委員からはホーム運営に関して具体的な提案や意見が出されており、それらをもとに改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の面会機会は多く、家族とのより良い関係づくりに向けて積極的なコミュニケーションを図っている。面会の難しい家族へは管理者が利用者とともに自宅へ出向いている。家族からの希望により家族会が組織・運営されており、積極的な意見が出されている。家族からはホーム行事等にも協力してもらっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム側から積極的に地域へ出て、公共機関等地域の社会資源を活用するなど当たり前の地域生活を送ることを通じ、住民のホームへの理解も深まっている。利用者の散歩や畑仕事の際に挨拶を交わしたり、ホームの行事にも地域住民を招待し、交流を深めている。広報紙も回覧板で回してもらい、さらなる理解浸透に活用している。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者を中心に職員全員で話し合い、ホームの理念を作成した。認知症になっても当たり前で家庭的な生活を営めるよう支援したいという理念の実践に向け、一丸となって取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者が日常的に言葉として出し、職員へも伝達している。リビング、休憩室等にも理念を掲示し、職員がいつでも確認できるようにしている。また、ホームの理念の実践に向け、具体的にどのように取り組むか、どのようなホームを理想とするのか勉強会も行っている。		
2 - 2	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	管理者は、「ホームの運営は利用者のみならず家族、地域と一体となって成り立つ」という考えを持ち、家族や地域へホームが大切にしていることを理解してもらうよう日々働きかけている。ホーム内に理念を掲示して家族や来訪者に見てもらったり、広報紙に理念を掲載することによりホームでの日常生活が分かる内容とし、家族や地域に配布・回覧している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は定期的に図書館、散歩、買い物に出かけたり、近所の人々へお茶のみに行き、地域住民と交流している。地域で開催されている「お茶の間サロン」へも出向いたり、地域の行事へも積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価をサービスの向上に活かそうという共通認識を持ち、管理者を中心に全職員で自己評価を行っている。自己評価・外部評価結果は職員会議、運営推進会議等でさらに検討し、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会代表、市の職員、社会福祉協議会や地域包括支援センター職員、町内会長をメンバーとして、2ヶ月に1回定期的に開催されている。毎回は難しいが、可能なときは利用者本人にも参加してもらっている。会議は参加メンバーが出席できる日程で行われており、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市、社会福祉協議会と日頃から協力関係が構築されている。ホームの行事で福祉バスを借用したり、市の敬老会への参加にあたり配慮してもらうなど、連携して利用者を支援している。		
6 - 2	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームでの虐待を防ぐため、管理者は、職員の精神的負担やストレスの状況に留意し軽減に努めるとともに、職員が認知症への理解を深められるよう日々指導している。また、虐待防止に関する外部研修にも参加し、内容を周知して理解浸透に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会が多く、その機会を活用してコミュニケーションをとっている。面会が難しい家族には、管理者が利用者とともに自宅へ出向いている。また、居室内に、家族と職員との情報や意見交換、連絡のための「絆ノート」を設置し、活用している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族側からの希望により家族会が結成されている。家族自身により積極的に運営されており、運営推進会議でも意見・提案をもらっている。		
8 - 2	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回程度、職員会議が行われている。そこで出された意見は運営に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は必要最小限に止められている。職員の離職や異動、新採用等については、関係性や影響を考慮しながら利用者へ伝えていく。但し、家族へは伝えられておらず新しく着任した職員についても面会時に紹介する程度である。又、地域へも職員紹介はされていない。	○	職員の離職、着任など利用者の家族にとってはとても大切なことなので、広報誌等も活用しながら適宜報告するよう期待したい。
9 - 2	18 - 2	○マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	ホーム独自のマニュアルを職員が一人ひとりずつ手分けして作成している。各種マニュアルは職員へ渡して周知しているが、見直しは行われていない。	○	職員会議等にてマニュアルを適宜見直し、一層周知・活用していくことを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の育成に意欲的であり、資格取得に向けて啓発し、勤務体制も考慮している。外部研修への参加もしているが、勤務上の都合等もあって職員が自己学習として休日を利用して参加する形にとどまっており、研修報告書の作成も十分になされていない。	○	サービスの質の向上のために、ホームとして必要な知識や技術を職員全体が習得できるよう、内部研修の実施や外部研修の参加等、組織として行っていくことが求められる。また、研修参加後は報告書を作成・回覧したり伝達研修を行うなど、全職員で学びを共有する仕組みを確立し、ホームのケアに活用していくことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームを見学してもらい、気付きを自分たちのケアに活かすよう努め、サービス向上に取り組んでいる。また、利用者・職員と一緒に近隣のグループホームとの交流会を行い、利用者にも好評だったため、今後も継続して活用していく予定である。		
11 - 2	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は日頃から職員に積極的に声をかけ、職員の心身状況を把握するようにしている。職員も、自分の思いをいつでも管理者へ伝えられる関係ができています。また、休憩時間は、仕事から離れて休憩室でしっかりと確保できるようにしている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には必ず本人・家族にホームを見学してもらい、納得してもらったうえで入居してもらうようにしている。また、ホームに入居するのは地域の方であることを踏まえ、日頃から地域の方からホームに来てもらうよう働きかけ、いつでも訪れやすい開放的な雰囲気づくりをしてホームを見てもらっている。実際、以前からホームに来てくれていた方が入居されることも少なくない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に利用者が主体性を持って生活できるよう意識し、それぞれの利用者の生活歴、過去の経験等を日常の暮らしに活かせるよう支援している。		
13 - 2	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係構築は利用者を支援するために不可欠であると認識し、家族とのコミュニケーションの機会を多く持つよう努めている。これにより家族とホームとの信頼関係が構築され、家族も協力的である。家族にも参加してもらう行事も多く行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から希望や要望を聞き取り、把握している。利用者の希望や要望は可能な限り尊重し受容するよう意識しながら接している。利用者個々の担当職員を決定する際にも本人の意向を踏まえ、意思疎通が困難な利用者については、日常生活の中での職員との関係性を考慮して管理者が担当職員を決定している。		
14 - 2	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前は、管理者を中心に利用者・家族から丁寧に聞き取りを行い情報収集をしている。入居後も管理者・担当職員を中心に、本人や家族との関わりから把握に努めている。生活歴を踏まえて、日常生活上の役割づくりをしたり、タンスや仏壇等馴染みのものを持ち込んで居室を整えるなど配慮している。また、入居前の人間関係を継続できるよう本人の友人宅への外出支援も行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中から担当職員が把握した本人の希望の状況、他の職員の気づきを踏まえて、計画作成担当者が介護計画を作成している。また、家族からも、面会時に話を聞いたり、要介護認定調査にも出来る限り立ち会ってもらいようにし、情報を共有して意向や希望を引き出すよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については職員が共有し、日常的に内容を評価・検討している。その評価をもとに、定期的および状態変化の際は随時、介護計画の見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者一人ひとりの要望に応じて、日常的に外出を支援したり、家族や知人、地域の方との交流機会を確保できるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者個々が希望するかかりつけ医から継続して医療を受けられるようにし、医師と情報を共有して連携している。協力病院以外のかかりつけ医を希望する場合は、受診支援は家族に協力してもらい、必要時にはホームでも受診支援を行っている。協力病院には日中夜間問わずにいつでも相談可能であり、密な連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りケアについてはホームで支援できる体制が整っておらず、現状では行わないこととしており、利用者・家族に説明して理解を得ている。利用者の状態の低下や変化に応じて、家族やかかりつけ医と相談し、ホームで行える支援や、特別養護老人ホームや病院等への移行等について個別に話し合っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーの確保についてはホームの理念にも掲げて職員に周知徹底し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけている。		
21	52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特にホーム側では日課を作らず、利用者のペースや希望に応じて自由に過ごせるようにしている。地域の茶の間、図書館への外出等、本人の希望にそったその日の予定に応じて支援している。畑仕事も自由に行えるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で利用者が栽培している作物を食事のメニューの中に取り入れており、食事が楽しみとなっている。利用者一人ひとりがごく自然に役割を担っており、利用者が主体的に食事の準備や後片付けができるよう、職員は側面的な支援を心がけている。		
22 - 2	56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンや毎日の排便の有無を把握している。ほとんどの利用者は自立した排泄を行っているが、本人の動き、様子を見ながら、必要に応じてさりげなく誘導するなど個々に合わせた支援をしている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一人ひとりの希望に応じて支援しており、最低週2回程度は入浴機会を確保して清潔保持に努めている。一人で入浴が可能な利用者については本人の意思を尊重し、職員がさりげなく様子を見守りながら一人で入浴できるようサポートしている。	○	現在、日曜日は入浴を行っていないが、利用者が希望に応じて入浴機会を選択できる幅を広げられるよう、日曜日も行うことが出来る職員の配置等、更なる工夫を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴やできること・得意なことなどを活かし、家事など自然に役割分担されている。また、散歩や外出、畑仕事、裁縫などを希望に応じて楽しめるよう支援している。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、季節ごとの外出行事、地域行事への参加など、外出機会を多く設けている。日光浴や畑仕事、洗濯物干し等、利用者は自由に気軽にホームの外に出ており、職員は個々に応じて見守ったり付き添うなどしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないという共通理解をもち、身体拘束を行わないケアに日々取り組んでいる。行動の制限や抑制など家族から要望された場合は、家族と充分に話し合いを行い、拘束をしないケアへの理解が得られるよう努めている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけておらず、チャイムの音で出入りを察知している。利用者が外に出られる場合は見守りを行って安全確保を行い、鍵をかけないケアを実践している。		
26 - 2	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハット、事故記録が整備されており、職員全員で情報を共有して再発防止策等を検討し、事故防止に取り組んでいる。		
26 - 3	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	年1回程度定期的に、消防署職員から救急法の指導を受け、緊急時の対応を身に付けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	日中や夜間、地震等さまざまな場面を想定した避難訓練の計画をたて、消防署職員の立会いのもと、月に1回実施している。地域住民との連携についてもこれから取り組んでいく意向である。	○	今後、運営推進会議等を活用しながら、地域との連携体制の確立に向けて取り組みが進んでいくことを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量を毎日把握するとともに、一人ひとりの咀嚼・嚥下等の状態や好みも把握している。それに応じて、主食をお粥にするなど個々の状態に合わせた食事を提供している。献立づくりの際は、利用者の意向を反映しつつ、必要な栄養素の確保など健康面にも留意している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には季節感のある装飾が施され、利用者の日々の生活の写真や、家族から頂いた絵画や写真を掲示しており、あたたかみのある空間となっている。不快な臭いや空気のよどみがないよう、こまめに換気を行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の理解と協力を得て、本人と相談し、居室に使い慣れた家具や仏壇、信仰している宗教に関する品などを持ち込んでもらい、安心して過ごせる環境づくりをしている。		